

[講演要旨] 大阪府における宝永地震(1707), および 安政南海地震(1854)の詳細震度分布

都司嘉宣 (東大地震研)

大坂は、宝永地震(1707), 安政南海地震(1854)による地震被害を受けている。大坂市街地は、石山合戦(1570-1580)で一度荒廃したあと、豊臣秀吉による大阪築城を経て、大坂夏の陣(1615)以後、1619年の幕府直轄地となった。大坂環状線の内部の範囲を南北に分ける西横堀川以西の土地は、中世以前には海域であったと見られる。すなわち宝永地震(1707)のころは、まだ陸地化して 200 年程度しか経過していなかったと考えられる。現在の大阪市域の東側の河内平野には、弥生時代までは「河内湖」と呼ばれる外界と直接つながった水域であった。このような事実は、宝永・安政南海地震の詳細震度分布図を描いたとき、なにか特徴が表れるだろうか?このような興味をもって、大阪府域の、宝永地震の詳細震度分布を描いてみた(図)。

